



# 町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【子どもたちの可能性を信じて育む・・・】

早いもので今年に入り  
早や半年が過ぎようとし  
ております。

六月二十一日（木）は  
夏至ですが、夏至は北半  
球では昼が一番長い日です。

これから夏本番とな  
り、養殖昆布の収穫が始  
まり、朝早くから浜を中  
心に福島町の町が年間一  
番のにぎわいを呈す時期  
でもあります。

六月十七日（日）に、  
認定こども園福島保育所  
の「第四十三回うんど  
かい」が福島保育所グラ  
ウンドにおいて開催され、  
多くの保護者の皆さんや  
町民の方々が会場に足を  
運んでくれました。

当日は、少し肌寒い天  
気でしたが、子どもたち  
の元気いっぱいのかけっ  
こや玉入れ、遊戯など、  
会場いっぱい笑顔が広  
がっております。最後  
は、つばめ組保護者の紅  
白リレーとつばめ組五歳  
児による紅白リレーがあ

り、白熱した展開に応援  
にも熱が入って会場全体  
が盛り上がっております。

少子化と言われており  
ますが、こんなにたくさ  
んの子供たちがいること  
に感激し、少し安堵した  
一日でした。

六月二十三日（土）に、  
「札幌福島会六十周年記  
念総会」が札幌市のホテ  
ルポールスター札幌で開  
催されました。

当日は、札幌市内を中  
心に九十二名の参加があ  
り、地元福島町からも溝  
部議長はじめ多くの方々  
に参加していただきました。

会場では、六十周年を  
記念し、国の重要無形民  
俗文化財の指定を受けま  
した「福島町松前神楽保  
存会」の皆さんによる「松  
前神楽」が奏上され、懐  
かしい笛や太鼓のリズム  
に感激し、「よゝそろゝ」  
の掛け声が会場に響いて  
おりました。

最後は、参加者全員が

手をつなぎ一つの輪になっ  
て、恒例となっている「ふ  
るさと」を合唱し、それ  
ぞれ故郷に思いを馳せて  
おりました。

六月二十四（日）に、  
一般社団法人函館青年会  
議所主催の「第五回わん  
ぱく相撲函館場所福島大  
会」が福島町鏡山公園相  
撲場で開催されました。

当日は、道南各地から  
男女合わせて九十名を超  
える小学生が参加し、多  
くの声援の中、全国大会  
が開催される両国国技館  
を目指して熱戦が繰り広  
げられました。

なかでも感動を与えて  
くれたのが、地元の小学  
五年生の吉田飛龍君と越  
後谷柊斗君です。

越後谷君は、決勝トー  
ナメントで第三位の健闘  
を見せてくれ、吉田君は、  
決勝戦に勝ち進み、強豪  
の北斗市萩野小学校の村  
田清之介君と対戦し、見  
事に優勝することができ、

国技館で開催される全国  
大会への出場権を獲得す  
ることができました。

私なりに勝負を冷静に  
判断すると、実力的にも  
相撲の力でも現時点で  
は、対戦相手が上回って  
おりましたが、地元の熱  
い声援と最後まであきら  
めないで勝つという気力  
が相手に勝っていた気が  
しております。

今年から指導者として  
頑張っている杉原君の喜  
ぶ姿も会場にあり、今後  
の活躍に期待を寄せるも  
のであります。

吉田君には、全国大会  
に向けて努力精進し、け  
いこに励んで頑張ってく  
ださい。皆様の温かいご  
理解とご支援をよろしく  
お願いいたします。

子ども達は私たち大人  
が計り知ることができな  
い可能性を秘めており、  
この可能性が未来を切り  
開くものであり、地域全  
体で育んでまいります。